

会議録(1)

会議の名称	令和5年度第2回飯能市地域包括支援センター運営等協議会
開催日時	令和5年8月23日(水) 開会 午後1時30分 閉会 午後2時38分
開催場所	飯能市総合福祉センター 3階 会議室1
会長氏名	大野 康
出席委員	池田 徳幸 打田 瑠美 大野 康 大野 泰規 小沢 幸子 桑山 和子 齋藤 明 角田 七重
欠席委員	黒見 恵
傍聴者の数	1人
会議次第	別紙のとおり
配布資料	別紙のとおり
事務局	福祉子ども部参事兼介護福祉課長 関根 浩司 主幹 加藤 かおり 主幹 藤島 弘介 主査 星井 華子 主査 栗島 祐介 主事 粕谷 健悟 主事 三村 和也

会議録(2)

議事の概要（経過）・決定事項

1 開会

2 あいさつ

3 議事

- (1) 地域包括支援センターの事業実施状況について
- (2) 地域包括支援センターの活動成果と今後の方針について
- (3) 令和4年度各地域包括支援センター収支決算
- (4) 地域包括支援センターの事業と職員配置について
- (5) その他

4 閉会

会議録(3)

発言者	発言内容
藤島主幹	(開会)
大野会長	「(1) 地域包括支援センターの事業実施状況について、(2) 地域包括支援センターの活動成果と今後の方針について」を議事とする。
関根参事	(資料1、資料2に基づき説明)
大野会長	議事(1)、議事(2)について、意見・質問を伺いたい。
桑山委員	資料1-1の基幹型包括の相談実績の報告があり、基幹型包括に対してはケアマネジャーなどから困難事例の相談があるが、そのほかにどのような方からの相談が挙がっているか。
関根参事	<p>基幹型包括は地域型包括の後方支援を担当しており、地域型包括や居宅介護支援事業所から虐待に関する相談などを受けている。市民の方が直接基幹型包括に相談することは少ない。社会福祉協議会が総合福祉センターを指定管理者として運営しており、指定管理の運営の仕様に利用者の方の相談を受けることが決められているため、基幹型包括に対しては福祉センターから相談がつながることがある。</p> <p>虐待、認知症などの案件は地域型包括が相談を受け、困難事例である場合は基幹型包括に相談するため地域型包括と基幹型包括の相談が重複することがある。様々な機関で支えていくことが必要な案件が多くなっていると感じている。</p>
大野会長	<p>議事(1)、議事(2)について承認とする。</p> <p>「(3) 令和4年度各地域包括支援センター収支決算、(4) 地域包括支援センターの事業と職員配置について」を議事とする。</p>
関根参事	(資料3、資料4に基づき説明)
大野会長	議事(3)、議事(4)について、意見・質問を伺いたい。
桑山委員	法人内で職員の異動があり、地域包括支援センターさかえ町に新規職員が配置された。外部から採用しても退職することがあり、職員の確保が難しく、職員の欠員があったが内部の異動によりさかえ町は8名体制となった。資料3のさかえ町の人件費が低くなっているが、包

	<p>括の収支はマイナスとなっている。</p> <p>介護予防支援のケアプランはケアマネの資格がなくても立てることができるため、職員の努力により収入に反映されている。</p> <p>認知症基本法が成立し、認知症施策が増えてくることやアルツハイマー月間への取組などを進めていく中で、総合相談やケアプランの作成も包括の業務となっており負担が増える可能性があるが、包括の業務を居宅へ委託することが難しく、法人内での調整に苦勞している。</p> <p>祝日は法人が勤務日であれば包括も開所している。包括の職員が疲弊しなければ良いと考えている。</p> <p>収支については法人の経営努力のため差が出ることもある。また、他市では収支が黒字になると返還を求められることがある。</p> <p>三職種の経験年数によって人件費も変わることがあり、名栗園は包括が始まった時期から勤務している職員がいるため、人件費が高くなっている。今後職員の入れ替わり等があれば人件費が下がる。</p> <p>業務のスリム化を行うことは包括にかかわらず必須であり、スリム化を行わないと運営に支障が出てしまう。</p> <p>職員を確保することと包括の職員として適性があるかどうかは別の問題であり、やむを得ず異動することもある。職員が包括に勤務しても疲弊して退職してしまうことを避けるために職員の適性を考えることが重要である。</p>
池田委員	
桑山委員	<p>パソコンの持ち出しについては、入力の手続きはどのように行っているか。</p>
藤島主幹	<p>パソコンを持ち出し、訪問先で入力し、事業所に戻ったら回線につながる記録の入力を行う。</p>
関根参事	<p>オンラインの場合はセキュリティの問題があるため、訪問先で回線につないでいない状態で記録を行っている。</p>
角田委員	<p>資料より、包括の事業について市が検討していることが伺える。また、池田委員より意見があったとおり、業務のスリム化が重要である。</p> <p>人員を1名増員していただいたが残業が長時間発生している状況である。三職種の確保が難しく、特に保健師が不足している。包括の業務に重要な役割を担っているため、市から保健師を派遣していただくことは可能であるか。</p>
関根参事	<p>飯能市としても保健師に欠員が生じており、募集を行っても申込が</p>

	<p>少ない状況である。</p>
大野委員	<p>包括の業務はビジネスとして考えていないが、収支が大きな赤字になると運営に影響が出るため、注意している。</p> <p>職種の採用に関して、資格を持っていたとしても適性があるかどうかを判断することが難しいため、包括の職員配置は慎重に考えている。また、欠員が生じてもすぐに新しい職員を配置できるとは限らないことを理解していただきたい。</p> <p>見直しを行わないと包括の業務が続かないことが予想されるため、改善できることは可能なものから取り組んでいくのが良いのではないかと。</p>
大野会長	<p>当協議会の資料についても、量が多いと事務局や委員の負担が増えてしまうため、今回のように簡潔にまとめられると良いのではないかと。</p>
打田委員	<p>高齢者が不安を抱えた際の相談の窓口が包括であるという認識がまだ不十分である。福祉が充実している自治体に住んでいても包括を知らなかった方がいたため、包括を案内したら親身になって相談を聞いていただいたことがあった。</p> <p>包括の業務が多忙であるが、不安を抱えた方が包括へ相談し、相談内容を整理した上で介護申請などにつなげる体制ができれば良い。また、ICT などの普及などにより情報の周知が行うことができれば良いのではないかと。</p>
小沢委員	<p>居宅介護支援事業所は包括から予防プランの委託を受けており、当事業所は約 30 件受けている。介護申請中の方のサービス暫定利用の際に居宅と包括の職員が同行訪問を行っている。また、要介護・要支援のどちらかの認定が出た場合にも居宅へケアプラン作成の依頼を受けることがあるが、要支援の認定が出た場合は包括に作成をしていただきたいのが実状である。</p> <p>ケアプランの作成を Excel で管理しているため、パソコンの操作に慣れていない職員は作成に苦労している状況である。</p>
齋藤副会長	<p>包括の負担が大きくなっていることが議題の中心になることが多い。</p> <p>資料 4-1 より、包括の業務が整理されているため、今後の改善に向けて明確な見通しを立てることができる。また、資料がスリム化され、残った時間を議論に充てられるため、良い傾向であるといえる。</p> <p>前回の会議で可能なものから取組を行うことが必要と意見が挙がったが、今回の資料より包括の業務の改善に向けた課題を可能なものか</p>

<p>大野会長</p>	<p>ら取り組んでいることが読み取れる。今後も国の施策等に合わせて業務の見直し等を行うことができれば良いのではないかと。</p> <p>他市から成年後見人の依頼を受けた際に包括の話が挙がり、包括の業務が多忙でスキルアップに割く時間が無いことや、費用の捻出に悩んでいるため、資格を持ちながらスキルアップできずに包括に勤務していることになると話があった。</p> <p>また、包括の事業所や包括の職員に力量の差が出てしまうことがあり、レベルアップするための研修ができていないのではないかと意見が挙がった。業務改善と同時に均一にスキルアップできる体制を整えることができれば良いのではないかと。</p> <p>第4次地域福祉計画の市の重点取組に包括的支援体制の整備について示されている。重層的支援体制整備事業など、国が求める政策の中で包括職員が疲弊してしまう状況は本来の趣旨とは異なる。包括職員に対しあこがれを持ち、目指すような体制ができれば良いのではないかと。</p> <p>介護保険事業計画の第9期計画が策定中であり、包括の業務に直結する内容が示されている。</p> <p>今回の協議会で課題が整理されているため、今後も取組を進めることができれば良いのではないかと。</p> <p>専門職のみで解決することは難しいため、親戚、近所の方など、住民同士のつながりを強化できれば良い。</p>
<p>桑山委員</p>	<p>資料2-2、2-3より新人職員向けの研修についての内容がある。管理者会議より意見が挙がっていたが、研修プログラムを完成させ、市と共有しながら新人向けの研修ができれば良いのではないかと。</p>
<p>関根参事</p>	<p>新人職員向けの研修について市に対して意見をいただいているが、進んでいない状況である。事務職の市の職員が専門職の包括の職員に対して研修を組むことは難しいのが現状である。</p> <p>各包括で取り組んでいる中で、意見等を集約し、調整ができれば良いと考えている。</p>
<p>大野会長</p>	<p>組織において人材育成が重要である。人を育てる視点を持っていれば組織の活力につながる。業務が多忙な中であるが、研修のあり方を考えていくことができれば良い。</p>
<p>関根参事</p>	<p>人材育成・業務のスリム化について当協議会の意見をもとに確認を行う。</p> <p>アルツハイマー月間に向けた事業に熱心に取り組んでいただい</p>

	<p>ることなど、包括は業務を熱心に取り組んでいただいている。 職員配置について、国の基準や法人の人材確保の状況などを確認することや、市内の高齢者数などを根拠にしながら増員について相談をしていきたい。</p> <p>大野会長 議事（3）、（4）について承認とする。</p> <p>藤島主幹 「その他」について意見・連絡等がある場合は伺いたい。</p> <p>星井主査 （9月の世界アルツハイマー月間の市の事業について当日配布資料に基づき説明：認知症サポーター養成講座、図書館特別展示等について）</p> <p>藤島主幹 次回は令和5年11月22日（水） 飯能市総合福祉センター3階会議室1で開催予定</p> <p>齋藤副会長 （閉会）</p>
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違ないことを証するためここに署名します。 令和 年 月 日 議長の署名 _____</p>	

